

MELON 情報紙

Miyagi Environmental Life Out-reach Network



2011年8月★第94号



MELON会員と市民のつどい

「みやぎのエコはどこに向かう?～ふみ出そう 次の一步を～」

日時：6月25日(土) 13:00～16:30

会場：せんだいメディアテーク1F オープンスクエア

内容：常設 エコ体験ブース(部会・プロジェクト・会員が出演)
ステージ 維持会員総会

記念パネルディスカッション「みやぎのエコはどこに向かう?」

省エネや段ボール工作のブースなどにたくさんの笑顔が見られ、来場者のみなさんと一緒に楽しく充実したひとときを過ごすことができました!

MELONとは 財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク ― 通称「MELON」。1992年の地球サミットをきっかけに翌'93年に誕生しました。緑と水と食をとおして環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体で作られたNGO(非政府組織)です。地域と地球環境を守るため1人ひとりの参加と協力をつなぎます。

MELON 会員募集

MELONの活動は会員の会費で支えられています。

MELON会員特典

- MELON主催イベントに会員割引で参加できます。
 - ごみや水、緑や食、自然エネルギーや企業の取り組みなどをテーマに勉強会や見学会を行う部会に参加できます。
 - ボランティアや部会に参加することにボランティアポイントが1個もらえ、5個集まると1,000円分のMELON商品券と交換できます。
 - 年5回の情報紙をお届けします。
 - メールアドレス登録で、会員同士の情報交換ができるメーリングリストに登録できます。
- ～入会希望の方は事務局までお問合せください～

Index

- P1-2. MELON会員と市民のつどい
- P3. 東日本大震災関連活動
- P4. MELONcafe プチ講座
かんきょう読み聞かせ『アクレセイと泉のはなし』
- P5. 協同組合のコーナー
50人リレートーク 福澤隼人さん
- P6. ストップ温暖化センターみやぎ通信
講座「目指せ!緑のカーテン」レポート
- P7. 公益財団法人への移行
生きもの調査 セミのなき声レポート募集
マイタンブラー エコスタンプキャンペーン
- P8. 投稿、イベント一覧、編集後記

MELON 会員と市民のつどい 報告

「第16回MELON会員と市民のつどい」は、財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワークの寄附行為に基づき会員に活動をご報告する維持会員総会を、広く一般の方々にも開放して毎年開催しているものです。MELONの活動を多くの方々には知っていただくために、維持会員総会の他に活動紹介のパネル展示や会員企業と部会プロジェクトメンバーによる体験ブース出展、記念パネルディスカッションを行いました。

第一部の維持会員総会では、2010年度の活動・決算の報告と監査報告、2011年度の事業計画・予算MELONの幅広い活動内容について報告しました。



維持会員総会

第二部のパネルディスカッションでは「宮城のエコはどこに向かう？」をテーマに、以下のパネリストが議論しました。みやぎ生協の環境活動などに長年協力している後藤一磨氏（COOP 緑の基金運営委員）、渡り鳥の研究者である呉地正行理事（日本雁を保護する会会長）、田尻地区のエコファーマー佐々木陽悦理事（みちのく田んぼの学校）、川崎町でエネルギーの自給活動に取り組む菊地重雄評議員（川崎町の資源を活かす会理事長）の4名です。コーディネーターは長谷川公一理事長（東北大学大学院文学研究科教授）がつとめました。後藤氏は南三陸町で被災し現在中新田の避難所で生活しています。呉地理事もご自宅が全壊するなどみなさん東日本大震災で何らかの影響を受け、震災を経ての今後の環境活動について意見を交わしました。

もともと自然と向き合ったライフスタイルをつらぬいてきたみなさんからは、「震災で価値観の転換があったなどと言われるが、それは都会の人の言うことでここにいるメンバーは自分の生き方の価値を再確認しただけ」や「今回の震災は不幸な出来事ではあったが、人間がござらずにもっと生き方を考えるよう自然が教えてくれて

いる」といった意見が出されました。そして、最後は長谷川理事長が「みなさんのお話を聞き、MELONはこのまま歩み続けていけばよいと感じた」と締めくくりました。



パネルディスカッション

パネルディスカッションのあとは、MELONが6月に宮城県知事と宮城県議会議長に提出した「宮城県震災復興に関する緊急提言」を報告しました。内容は、もっと地域や生産者・県民の声を聞き、地域に根ざした復興策を考えるべきであるということが中心となっています。この提言の全文についてはMELONのホームページで紹介しています。

今年は、東日本大震災の影響で開催が危ぶまれましたが、結果的には約200名の来場者でにぎわい、充実した内容で開催できたのではないかと思います。ご来場いただいたみなさん、ありがとうございました！



団体会員と部会プロジェクトメンバーによるブースエリア

「東日本大震災 つながり・ぬくもりプロジェクト ～太陽光・太陽熱・バイオマスなどによる被災地支援～」に協力しています！

東日本大震災から5か月となりました。被災地では支援から復興へと一歩ずつ動き始めています。

MELONでは被災地支援活動の一環として、「東日本大震災 つながり・ぬくもりプロジェクト～太陽光・太陽熱・バイオマスなどによる被災地支援～」に協力しています。

この活動は「環境エネルギー政策研究所(ISEP)」が「自然エネルギー事業協同組合レクスタ」と連携し、避難所をはじめ、保育所、公民館、ボランティアセンターなど復興に欠かせない施設に太陽光発電システムを設置する活動です。設置資金は環境エネルギー政策研究所が募金を募ってまかっています。

7月9日(土)に初めてMELONが紹介した施設に太陽光システムを寄贈しました。場所は災害復興活動のボランティアの活動拠点となっている、南三陸町の「RQ歌津センター」です。この施設には電気がなく、発電機や小さな太陽光発電システムで最低限の電気をまかっています。今後の夏の活動では、氷を冷凍庫で作るときなどに電気を使う量が増えるために現在の発電量ではまかないきれません。そのため、1.2kwのシステムを現



自然エネルギー事業協同組合レクスタさんと現地のボランティアさんと一緒に設置作業をしました。

地のボランティアさんと一緒に一日がかりで取り付けました。この日は晴天で大きなトラブルもなく無事に設置することができました。

これからも、宮城県の被災した地域の避難所等に設置を進めたいと思います。新たに設置しましたら、ホームページ等でお知らせします。

くでじゅう 組手 什 を避難所へ寄贈しました

避難所などでのプライバシー保護のための間仕切りや収納棚、机をクギや接着剤を使わずに、誰でも自由に組み立てることができるキット「組手 什 (くでじゅう)」。今回、「緑の募金」使途限定募金(東日本大震災復興事業)で森林の整備や間伐材の利用と復興支援を目的に全国で寄贈が行われています。

MELONでは寄贈先の避難所を探し、登米町森林組合で作成した組手 什を県内5ヶ所計約5,000本、共に寄贈しました。

寄贈した先では、そこで暮らしているみなさんで組手

什を組み立て、一緒に汗を流しました。棚や間仕切りだけでなく、子ども用の勉強机を作る方もいました。「頭の体操にもなるわね」「仮設に行ってもまた組み替えて使えそうだね」「自分で組み立てたから愛着がわいちゃった」「木の香りがしてうれしい」と大好評でした。木の香りや色合い、手触りがみなさんの気持ちを和ませたようです。

予定していた本数全てを寄贈することができたため、MELONでの寄贈は一段落となります。これからも寄贈した組手 什がみなさんの役に立つことを祈っています。



石巻高校トレーニング室では間仕切りに



中新田交流センターでは棚や机に



MELONcafe

MELONcafe プチ講座

- 6月18日(土) 13:30～14:30
「あると便利! リメイクキャンドル作り☆」
- 7月16日(土) 13:30～14:30
「保冷剤でひんやりハンドメイドスカーフ♪」
- 7月30日(土) 13:30～14:30
「夏野菜で涼しくエコ・クッキング
～冷製パスタ&豆腐のカプレーゼ～」

6月からの講座は、緊急性が高い「夏の省エネ」を目的に講座を開催しました。

6月の「リメイクキャンドル作り」の講座は停電対策を意識したものです。参加者は卵の殻にロウを少しずつ入れるのに苦戦していました。作ったエッグキャンドルの一部は6月25日に行ったMELON会員と市民のつどいの部会ブースで絵付け体験に使用しました。

また7月の保冷剤を入れるスカーフ作りでは、使わなくなった布をリメイクして、冷凍庫に眠っている保冷剤を活



エッグキャンドルを作りました。

用しました。首を冷やすと体全体が冷え、冬にはホッカイロを入れれば体全体が温まります。参加者は自分でアレンジをして、素敵なスカーフができました。



スカーフ作りに夢中です!

アレンジをして素敵にできました。

7月のもう一つの講座は夏野菜を利用した料理の講座です。山形郷土料理の「だし」を、冷やしたパスタの上にのせた冷製パスタや、トマトと水抜きした豆腐を交互に並べた「カプレーゼ」を作りました。ここで皆さんに山形郷土料理「だし」の作り方をご紹介します。

材 料：キュウリ、なす、ミョウガ、しそ、醤油
作り方：醤油以外の材料をすべて粗みじん切りにします。醤油をかけてしばらく置くと完成です♪簡単ですね。

夏野菜は水分を多く含み体を冷やす効果があります。少しの工夫で節電の夏を快適に過ごしましょう。

今後のMELONcafe プチ講座

- 9月3日(土) 13:30～14:30
「米粉でお月見団子作り(お抹茶つき)」
- 場所：MELON事務局



アレクセイと泉のはなし

アレクセイが感じている「豊かさ」

石垣政裕

本橋成一作「アレクセイと泉のはなし」(アリス館、2004年4月)という本の中に「原子力発電所ができる、生活がもっと豊かになるって教えられた。でもぼくの村はほんの少しの電気で、とても豊かだったし、いまでもみんな満足している。」と書いてあります。

わたしたちは今、福島原発事故と向き合っているわけですが、この「アレクセイと泉のはなし」はどここの国の話なのでしょう。

福島の原子力発電所で作られた電気が福島ではなく東京などで使われていたことを多くの人知ったのは、事故が起きて、テレビでそのことが報道されたからです。わたしたちは政治や文化・芸術や流行

やらに関する沢山のことをテレビから受け取りますが、それらの多くは東京などの大都市を中心にして作られていること、そして、そこで語られないもっともったくさんのことがあることにいつも立ち戻る必要があるでしょう。

このことは電気に限ったことではありませんが、危ないものを自分たちより遠くにおいて作られる「豊かさ」がわたしたちの「豊かさ」かどうかを考えるのは、テレビの中でなく、わたしたちの地域と他の地域とをしっかりと結びつけて考える必要があるでしょう。たとえば、人間の「安全」は議論されていますが、人間以外の生き物についての「安全」はまだどこで語られているのかわかりません。

さて、この本はチェルノブイリ発電所の爆発事故で放射能汚染地帯になったベラルーシの話ですが、わたしは福島の地域を去らなければいけなかった人びとのことを思いやりながら、自分の生活をふり返りながらこの「アレクセイ」の話を読みました。この本のあとがきで「アレクセイ」が馬をしかるエピソードが語られています。「安全」が決して人間だけのものでない、命のつながりを感じさせるお話です。



各協同組合からのお知らせ

MELON の協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

学習会参加者募集

みやぎ生協 消費者力アップ講座「こころゆたかに省エネライフ」

この夏のキャッチフレーズは「節電・節水」。まさに今までのエコライフの知識が活かされた方も多いはず。夏の節電・節水でがんばった皆さんもここで一息入れて、冬の省エネに向けて踏み出しましょう。渡辺祥子さんと門田陽子さんの楽しいトークを聞きながら、無理せず楽しく出来る省エネライフのポイントをマスターしませんか？ 当日はストップ温暖化センターみやぎ「みやぎ節電プロジェクト2011」への参加を呼びかけます。

※環境と消費者力 国際消費者機構（CI）では消費者の8つの権利と5つの責任の中で、環境へ配慮する責任をうたっています。環境を保全していくことなど消費者の責任ある行動に結びつくように消費者力アップ講座を開催しています。

- ①日 時：2011年10月6日（木）10:30～12:30
- ②会 場：エルパーク仙台5階 セミナーホール1・2
- ③講 師：渡辺祥子氏（フリーアナウンサー）
門田陽子氏（MELON 理事）
- ④募 集：100名（参加費無料・応募多数の場合は抽選） 託児なし
- ⑤申 込：FAXまたはメールでお申込みください（締め切り9/20）
みやぎ生協生活文化部くらしの活動事務局 向井まで
FAX 022-218-5945
Eメールアドレス sn.msyouhisyagyousei@todock.jp



©MIC



MELON20周年をめざせ！ 50人リレートーク



第37人目の執筆者

福澤隼人さん
（環境保全米ネットワーク）

お米の栽培には、肥料や農薬が欠かせませんが、化学合成したものを減らそうという動きがだんだんと定着してきました。

例えば、肥料においては有機物由来のものを使用したり、堆肥を入れることにより土の状態を改善すること、農薬においては、種もみの殺菌剤処理に代わり、約60℃のお湯に数分間浸す「温湯消毒」、除草剤の代替として除草専用機械やアイガモを導入することにより使用を減らす事ができます。日本農林規格（JAS）に基づく有機栽培では、化学肥料や農薬は使用せずに栽培されています。生産者の取り組める内容に応じ生産基準をいくつか設定し、「環境保全米」として認証しています。

毎年の生き物調査で、普通栽培より環境保全米のほうが、また長年継続している地域ほど生き物が多い

という結果もわかってきました。

最近は環境保全米栽培農家に行き、生産者とともに田んぼを回り、基準通り栽培が行われているかどうか確認の日々です。田んぼは一見静かですが、カエルやクモをはじめいろいろな生き物があり、彼らのドラマが繰り広げられています。生命の誕生、他の生き物に捕まり食べられている瞬間、息絶えようとするそのときなどなど……。7月上旬のトンボの羽化ラッシュの時は、仕事半分物珍しさにしばらくその風景を見つめていました。

そんな田んぼを守るために、消費者（食べる側）が簡単にできることがあります。それは「ごはんを食べること」です。できれば、環境保全米を手にとってもらい消費が増えると嬉しいですね！

NPO 法人環境保全米ネットワーク
〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-16-3 JAビル別館5F
TEL 022-261-7348 FAX 022-261-7488

… 次号執筆者紹介 …

町 直樹さん
（宮城県職員）



ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.51

「みやぎ節電プロジェクト2011」を実施します!!

今年の夏は電力需給が逼迫した状況にあり、テレビや新聞などでも節電が呼びかけられています。東日本大震災の影響とはいえ、多くの方が普段の電力の使用について見直していくことは、とても大切なことであり良い兆候ですね。

今年度ストップ温暖化センターみやぎでは、NPO法人環境会議所東北、仙台生ごみリサイクルネットワーク、みやぎ生活協同組合、東北電力株式会社宮城支店と共同で「みやぎ節電プロジェクト2011」を実施します。このプロジェクトの目的は、快適なライフスタイルを損なわないように工夫しながら、家庭や企業における電力使用量削減に取り組み、温室効果ガスの排出抑制を図ることです。

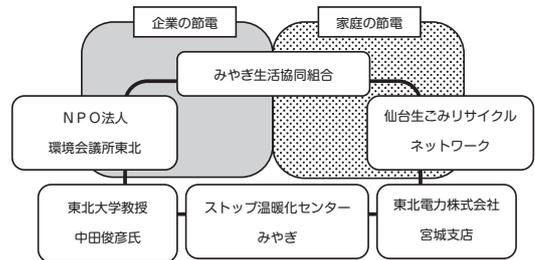
資源エネルギー庁推計によると、家庭においては53%がエアコン、オフィスビルにおいては48%が空調によって電力が消費されているそうです。効果的に節電を行うには、空調に関する取り組みは欠かせないですね。

ところで、このプロジェクトでは快適なライフスタイルを損なわない「工夫」がポイントになります。今回取り入れる工夫は、空調の温度設定を少し変える代わりに、緑のカーテ

ンや断熱シートを導入するというものです。

6月28日、仙台生ごみリサイクルネットワークが中心となり、宮城野小学校の社会学級の皆さんに「ベジタブルカーテン勉強会」を実施しました。受講者は、緑のカーテンを成功させる秘訣を熱心にメモしていました。節電を続けていくコツは、生活の中の工夫や知恵で、我慢や無理をせずに楽しみながら行うことですね。

みやぎ節電コンソーシアム



測ってみよう! 電気とわたしたちの暮らし~推進員の活動~

学都仙台宮城 サイエンスデイ2011
 日時：7月10日(日) 9:00~17:00
 会場：東北大学川内北キャンパス
 推進員：菅野喜美恵さん、庄子良二さん、神宮朋恵さん、菅原民四郎さん、千葉さえ子さん、新野進さん、藤原富雄さん(五十音順)

ワットアワーメーターを使って身近な家電製品の電力使用量を測り、節電や自然エネルギーについて考えるブースを出展し、7名の推進員さんが活動を行いました。

待機電力やLEDについて実際に測ったり体験したりすると・・・来場者は「コンセントにつないでいるだけで電気を使ってるなんてもったいない!」との言葉。

推進員さんは「実際に数字で示したり体感すると、省エネの意識が高まります。何気ない日々の暮らしがエネルギーを使って成り立っていることを、これからも伝えていきたいです。」との感想を語っていました。

自分の暮らしから温暖化対策。生活者の視点からそれを伝える推進員さんのますますの活躍をご期待ください!



待機電力、実はこんなにあるんです



白熱灯はたくさんエネルギーを使うね

第1回生ごみ堆肥化&ベランダ園芸講座「目指せ!緑のカーテン」

日時：6月18日(土) 10:30~12:30
 会場：フォレスト仙台5階 501会議室
 講師：田中紳伍さん(ガーデンガーデン店長)

「ダンボールを使った生ごみ堆肥づくり」と「ゴーヤの緑のカーテンの作り方」の講座を開催し、プランターを使って大きく育てるためのコツについて学びました。田中紳伍さんの質疑応答を交えての軽妙で分かりやすい話に講座は大いに盛り上がりました。30人の定員対して41名の応募があり、この夏の節電に向けて市民の関心の大きさがうかがわれました。

後日、参加者にゴーヤの成長具合を聞くと、講座の成果が順調に育っているそうです。



講師の軽妙な話に和やかに受講

公益財団法人へ移行します！

2008年に公益法人に関する法律が改正され、すべての財団法人と社団法人は5年以内に新制度に基づく法人格に移行申請することが求められています。概要はMELONのような財団法人については、登記だけでなく法人格がとれる「一般財団法人」とより高い公益性を審査される「公益財団法人」に分かれることになります。

MELONは基本的に公益活動を行う法人であるため、上記のうち「公益財団法人」への移行をめざして申請中です。震災の影響などで県の処理に時間がかかっていることもあり、最終的に認定され移行する時期については今のところ未定です。

MELONはもともと環境保全のための公益活動を事業内容としてきましたので、公益財団法人に移行しても環境活動という事業内容については今までと変わりありません。しかし、一般に開かれた形で活動がおこなわれているかどうかなど公益性について今までより高いレベルを求められることになります。

公益財団法人になるメリットとしては、社会的な信頼度が増すということ以外にMELONへの会費や寄付の金額に応じて所得控除の対象となります。

正式に移行が決まった際には、ホームページや情報誌等でお伝えしたいと思います。

生きもの調査 セミのなき声レポート募集

2011年度から新たな部会として誕生した「みやぎ里山応援団」では、この夏から秋にかけて生きもの調査を行います。調べる生きものはセミ。姿だけでなく、種類によってなき声に特徴があるため、誰もが気軽に参加できることからセミにしました。

セミは、時期だけでなく周辺の環境によっても種類が異なります。例えば、アブラゼミなら公園や街路樹のあるところ、ツクツクボウシなら森などの樹木が密集するところにいます。県内の多くの地域のレポートをお寄せいただき、その地域の環境の変化を調査していきたいと思っています。

調査レポート用紙はホームページからダウンロードできます。ぜひみなさんのご協力よろしくお願いいたします！

マイタンブラーをもって 応援しましょう！

「平成23年度地球環境基金助成金」の助成先にMELONが採択され、エコシティ仙台プロデュースプロジェクトが「エコスタンプキャンペーン」を行います。

ベガルタ仙台のホーム戦では毎試合、たくさんの紙コップやペットボトルが収集されています。(紙コップ2,315個/1試合、ペットボトル31.2袋/1試合※2010年実績)

この「エコスタンプキャンペーン」では紙コップやペットボトルの回収量を削減するため、ユアテックスタジアムでのホーム戦にてブースを出展し、ごみの減量を呼びかけます。このイベントは指定した5試合にマイタンブラーを持ってきた観客へスタンプを押し、3回スタンプがたまった方に抽選でエコグッズをプレゼントします。期間は8月27日～11月3日のホーム戦を予定しています。

みなさんも観戦する時には、マイタンブラーを持って応援しましょう。

MELON みやぎ里山応援団 生きもの調査
セミのなき声レポート募集

各地環境（国）みやぎ、環境とくらし・ネットワーク（東北版）では、2011年度から森林などの自然の保全や生物多様性に取組む「みやぎ里山応援団」を立ち上げ活動を開始しました。

生きもの調査は、自然の環境の変化を記録することを目的に、今年夏の調査を行います。調査にあたっては、観察場所の方向に「調査員」として協力いたします。その種類や観察レポートなどになります。内容は、いつ、どこで、どのようななき声かを記録するだけ。調査期間は「注意書き」を参照してください。夏から秋にかけて季節の変化を告げるセミのなき声は、自然の環境の変化を伝える大切な手がかりです。ご協力よろしくお願いいたします！

編：みやぎ里山応援団

ジーザシ ニイニイゼミ 鳴き声は「ジーザシ」の音。夏に鳴き始める。セミのなかでも、最も早く鳴き始める。セミのなかでも、最も早く鳴き始める。	カクカク カクカクゼミ 鳴き声は「カクカク」の音。夏に鳴き始める。セミのなかでも、最も早く鳴き始める。	ビガカシ ビガカシゼミ 鳴き声は「ビガカシ」の音。夏に鳴き始める。セミのなかでも、最も早く鳴き始める。	シメジメ シメジメゼミ 鳴き声は「シメジメ」の音。夏に鳴き始める。セミのなかでも、最も早く鳴き始める。	アブラゼミ アブラゼミ 鳴き声は「アブラゼミ」の音。夏に鳴き始める。セミのなかでも、最も早く鳴き始める。
アブラゼミ アブラゼミ 鳴き声は「アブラゼミ」の音。夏に鳴き始める。セミのなかでも、最も早く鳴き始める。	アブラゼミ アブラゼミ 鳴き声は「アブラゼミ」の音。夏に鳴き始める。セミのなかでも、最も早く鳴き始める。	アブラゼミ アブラゼミ 鳴き声は「アブラゼミ」の音。夏に鳴き始める。セミのなかでも、最も早く鳴き始める。	アブラゼミ アブラゼミ 鳴き声は「アブラゼミ」の音。夏に鳴き始める。セミのなかでも、最も早く鳴き始める。	アブラゼミ アブラゼミ 鳴き声は「アブラゼミ」の音。夏に鳴き始める。セミのなかでも、最も早く鳴き始める。

主催・問合せ：財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON)
〒981-0803 仙台市青葉区中央1-2-45 フォレストビル5F 担当：公益
TEL:022-278-9118 TEL:022-278-9119 Email: melon@yag.jp



スタジアムではチーム公認のタンブラーで飲み物が割引になります。

94 号の投稿テーマ

「震災時に役立ったエコなもの」

「雨水桶」

断水してだったので、飲み水以外で使える水があることがとってもありがたかったです。

飲み水は給水車に並んで手に入れましたが、洗い流したりするときに自由に使える水が家にあって本当に役立ちました。

匿名

「保温調理」

寒かったのであったかいものが食べたいけど、ガスがしばらく戻らなかったため、ガスボンベや電気節約に保温調理をしてました。とりあえずある野菜やお肉を食べたので雑炊とかが多かったです。最初くつくつして、タオルで包んでおいておけば温めなおす必要もなく便利でした。

「太陽光で充電できるランプ」

小さい太陽電池がついたランプ。昼間充電して夜室内で使っていました。電気が戻ってからもあまり電灯をつけなかったため、階段をのぼるときとかに利用しました。

ペンネーム 「マックスさん」

「バイク&自転車」

渋滞とガソリン不足の中で燃費の良いバイクがあったので石巻や名取まで行けました。バイクのガソリンもなくなってからは自転車が活躍。行動範囲があるかないとは全然違います！健康にもなった気がします

ペンネーム 「I」

「キャンプ用品」

水のタンクやランタン、寝袋などアウトドア用品が役立った。

ペンネーム 「KO」

投稿募集

95号テーマ

「冬の節電に向けて始めたこと・始めようと思うこと」

夏の節電を乗り切った後は冬の節電も大切なところ。夏の節電ではいろんな工夫がりましたが、冬に向けて始めたことや始めようと思っていることを教えてください。

投稿方法

■投稿文とペンネームを明記し、メール・FAX・ハガキ等にてMELONへお寄せください。

ケータイからの投稿はQRコードからご覧いただくことができます。



■締め切り：9月12日（月）

編集後記

■「実験だから試して」という担当者に従って生ゴミ堆肥キットにカニの足を。数ヶ月後、きれいに分解。驚きです！（江刺家）

■暑い夏が予想（私の）より早くやってきた。エアコンもない、扇風機もない我家の省エネ対策はゴーヤで作った「緑のカーテン」。順調に育ってほしい。（篠原）

■今年、緑のカーテンデビューです！あさがおを育てています。暑いわが家が少しでも涼しくなりますように！（菅田）

■ベランダに緑のカーテンを設置しました。ゴーヤの苗を植え成長が楽しみです。すくすく伸びて日差しを少しでも遮ってほしいです。（三浦）

MELON イベント情報

これから開催を予定しているイベント・会議をご紹介します。

各イベント参加者を募集しています。詳しくはMELON事務局までお問合せください。

※会員以外の方も参加できます。

8/7・8・12・13	クリネックススタジアム宮城 エコ体験ブース出展
8/18（木）	エコシティ仙台サポーターズ例会
8/19（金）	食部会例会
8/20（土）	水部会例会
8/27（土）	まちなか eco マルシェ 出展
9/ 2（金）	情報センター例会
9/ 3（土）	MELONcafe プチ講座「米粉でお月見団子作り（お抹茶つき）」
9/ 4（日）	エコフェスタ 2011 ブース出展
9/ 5（月）	みやぎ里山応援団例会
9/ 9（金）	企業交流部会公開例会「活動報告会 企業のSR 環境&スポーツ」
9/24（土）	まちなか eco マルシェ 出展

※日程や内容の変更、上記以外にもイベント開催する場合があります。ご了承ください。

「七ヶ浜（菖蒲田浜）海岸清掃ボランティア募集」

海水浴場として親しまれている七ヶ浜の菖蒲田浜を中心にがれきや漂流物の片づけなどの海岸清掃を行なうボランティアを募集します。

期 間：9月4日（日）までの毎週土・日実施。
※8/13・14を除く

時 間：9：45～12：00 ごろ

集合場所：「ボランティアぎずな館」（七ヶ浜生涯学習センター奥スパーク七ヶ浜内）

参加条件：事前申し込みが必要です。4～5名1チームでお申込みください。

参加申込方法や注意事項、持ち物についてはMELONのホームページ、またはチラシをご確認ください。

会員状況

976名

法人 97

任意団体 17

個人 862

2011年7月25日現在

ボランティアポイントカードをご活用ください

部会・プロジェクトの例会、イベントにボランティア参加する際にボランティアポイントカードをお持ちください。1回の参加で1スタンプを捺印します。5つ貯まるとMELON協力商品券（1,000円分）と交換できます。カードを紛失した方は事務局までご連絡いただければ再発行いたします。



MELON 協力商品券を利用しましょう。



「MELON 協力商品券」を積極的にご利用ください。利用額の一部がMELONに寄附され、皆さんの日頃のお買い物行動から環境を守る活動に役立つ仕組みが作られています。

発行元 財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON） Miyagi Environmental Life Out-reach Network

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F

★事務局 TEL 022-276-5118 FAX 022-219-5713

★情報センター TEL 022-301-9146 FAX 022-219-5710

★ストップ温暖化センターみやぎ TEL 022-301-9145 FAX 022-219-5710

E-mail melon@miyagi.jp URL http://www.melon.or.jp/melon/



この印刷物は、輸送マイルージ低減によるCO₂削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷しており、印刷用紙へのリサイクルが可能です。

※ MELON 情報紙は再生紙を使用しています。